

日光の

むかしばなし ⑱

【有宇中将物語(ありうちゅうじょうものごと)】つづき

日光山についての朝日姫は、中将のなきがらをだいて、声を上げて泣きました。姫の悲しみの声に、日光山の鳥やけものそして草木まで悲しみにしずまりました。朝日姫は、日光山のふもとの上ノ代、(今の和の代町)に家をたて、大日堂のあたりをさんぽして悲しみをまぎらせていましたが、間もなく中将の後を追うようにしてなくなりました。



しゃぼん玉

ストローの先にせっけん液をつけて、反対側からそーっと息を吹き込むと、光で色づいた玉が飛んでいく、しゃぼん玉は、子どものころからおなじみの遊びですね。ところで最近の子どもたちにも聞いたところ、しゃぼん玉はみんなが知っていました。しかし、しゃぼんという言葉の意味を知らない子がかなりいました。しゃぼんという言葉はせつ

の世で会いました。

えんま大王が「じょうはりのかがみ」に三人を写して見ると、三人の生まれる前のすがたが写りました。

それによると、中将は日光山のりょうしで、青鹿毛はお母さん。悪太丸は妻で、雲の上は子どもだったのです。えんま大王は、まだ死ぬのは早い、と言って、三人をこの世に送り返しました。三人はまた生き返ったのです。

中将と姫は、日光山のふもとでくらし、やがて男の子が生まれました。これは、青鹿毛の生れ変わりだということで「馬王」と名づけました。

けんという意味で、ポルトガル語のサボン(Sabão)が語源です。お年を召した方には、しゃぼんという言葉をつかっていた記憶がある人も多いと思います。

しゃぼんがポルトガルから伝来したのが十六世紀、しゃぼん玉遊びは十七世紀のはじめに、江戸にしゃぼん玉売りが登場したのが最初といわれています。箱を首にかけ、しゃぼん玉を吹きながら、「玉や、玉や」といって売り歩く姿は、江戸の風物詩でした。最近では、洗剤やシャンプーなどでも手軽につくって遊ぶことができます。

やがて、馬王は都へ上り、中納言となりました。そして、おじいさんの朝日長者の家へ行ったとき、男の子が生まれました。その男の子は、顔が猿にそっくりだったので、猿丸と名付けました。

中将たちは、日光山のふもとで一生を終え、日光の神様になりました。

中将は二荒山神社、馬王は本宮神社、朝日姫は滝尾神社にまつられました。

中将と朝日姫の墓は、安良沢小学校前の「宝塚」です。姫の宝物をいっしょにうめたので、そういう名がつけられたのです。猿丸も大きくな

ところで、しゃぼん玉は春の季語です。しゃぼん玉の飛ぶのを追って空を見上げたなら、そこに鳥の姿が：などということもあります。五月十六日は、「愛鳥週間」。野鳥と人間の共存する住みよい環境を守っていくことに、関心をもちたいものです。



て父の馬王のように都に上り天皇にお目にかかりました。天皇は、猿のような顔をした猿丸をみておどろき、「お前は、奥州(今の東北地方)へ帰って、郡司(地方の役人)になれ。」と命じました。猿丸は奥州の「あつかし山」のふもとの小野に住み、小野ノ猿丸と名のり、弓矢の大人人として人々からそんけいさされました。

このお話はまだ続きます。小野ノ猿丸。弓矢の大人人。あつかし山のふもとにすむ：思い出しましたか。そうです。戦場が原の戦いに、日光の二荒の神を助けて、赤城の百足軍をうちやぶった小野の猿丸その人なのです。

父の馬王のように都に上り天皇にお目にかかりました。天皇は、猿のような顔をした猿丸をみておどろき、「お前は、奥州(今の東北地方)へ帰って、郡司(地方の役人)になれ。」と命じました。猿丸は奥州の「あつかし山」のふもとの小野に住み、小野ノ猿丸と名のり、弓矢の大人人として人々からそんけいさされました。

春の山草展

日時 5月13日(金)~15日(日) 午前9時~午後5時 会場 総合会館



Table with 4 columns: 月日 (Date), 医療機関名 (Medical Institution Name), 所在地 (Location), 電話 (Phone Number). Lists on-call doctors for various dates in May.



「子どものための 日光むかしばなし」 八木沢 亨著
(三月一日~三十一日扱い分) (敬称略)
◆現金寄付 ●社会福祉へ
日光地区繊維商協同組合(安川町) 七万八千六百九十九円
●老人福祉へ 小端ツル(清滝一) 五万円 匿名 五万円
●いちいの家へ 公民館サークル連絡会(御幸町) 七万八千円 加藤美佐子(松原町) 一万九千円 松原町婦人部あゆみの会 五万円 野沢光枝(稲荷二) 二千元 匿名 千円
●キスゲ作業所へ 公民館サークル連絡会(御幸町) 七万八千円 加藤美佐子(松原町) 一万九千円 ●下野三楽園へ 匿名 千円 ●交通遺児へ 山田春子(所野) 千円 ●歳末募金 鈴木栄一(匠町) 三百二十三円
◆物品寄付 ●社会福祉へ
神山裕子(湯本) タオル六十枚 身体障害児(者)へ 鶴島アヤ(安川町) オシメ二十枚 星野イネ(七里) 和紙小物入れ五十個